

## 「テンポ・ドロップを作る(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

何日か迷った末、結局買ってしまった。ちょうど5年生の「もののとけ方」の学習中だったし、授業でも役立ちそうだと思ったからだ。レジにお願いすると、「奥から在庫を出します」というので、店の商品を見ながら待っていた。すると、当然のように贈り物用の包装になっていた。何か、申し訳ないと思った。



箱を開けると、緩衝剤に梱包された「テンポ・ドロップ」が出てきた。底部が丸いので、立てて置くための木製の台座が入っている。簡単な説明書も入っていたので、まず読んでみた。



説明書によると、もともとは「ストーム・グラス」という、天気予報用の器具とわかった。密閉されているので、感知できる変化は気温だけだろう。

### ストームグラスについて

天候の変化に応じて様々な表情の結晶化を繰り返す『ストームグラス』は19世紀ヨーロッパで主に航海時の天候予測器として使用されていました。樟脳を含む化学薬品の混合液をアルコールに溶かし、ガラス管に密封して作られています。当時の英国政府は海難事故を防ぐため海軍の測量船ビーグル号の司令官ロバート・フィッツロイ提督が研究を進めていたフィッツロイ・バロメーターと呼ばれる水銀気圧計、温度計、ストームグラスを一組にした計器を漁港に配備しました。この計器は現在でも欧州の骨董屋などで見つけることができます。ロバート・フィッツロイが1863年に出版した『Weather Book』ではストームグラスについての記述があり、この本の中でストームグラスが示唆する結晶化について、気温や気圧、大気中の電位変化に影響を受けて後の天候を予知する、また現象の変化によって雷雨がやってくる方向が読み取れるとも記述しています。1870年にSF冒険小説家ジュール・ヴェルヌが発表した『海底二万マイル』の中で、新鋭潜水艦ノーチラス号の中にも設置されているストームグラスが登場します。当時流行していたこの物語に取り上げられるほど、ストームグラスは人々の生活の身近にあった事が伺えます。その後の科学の発展に伴い、実際には結晶化現象については謎が多い事がわかり、いまだ詳細は研究途上です。現代では予測器としての実用は難しいですが、季節によって景色が変わるように日々変化する結晶の様子を『Tempo』でお楽しみください。

- ストームグラスは環境によって結晶化するまでの時間が異なります。パッケージから出して設置し、室内環境になじんで安定するまでに約1〜2週間かかると言われています。
- 設置場所の環境によりますが、樟脳は経年変化で徐々にあめ色に変化します。直射日光にあてると変色が早まりますのでご了承ください。変色によって結晶化が劣化していく事はございません。
- ストームグラスは特に気温の変化に反応します。設置する際は空調機が直接当たらない、気温の変化が起こりやすい玄関などの場所がおすすめです。



さっそく、自宅の机上に飾ってみた。運搬中に揺れたので、結晶は崩れている。しかし、なかなか美しい。説明書通り、しばらく置いて観察しよう。(つづく)